

「CO2 排出量の見える化」の 最新動向と対応

参加無料

「御社が納品している製品の温室効果ガス(CO2)排出量を報告してください。」
「御社の製品について、温室効果ガス(CO2)排出量の削減目標を報告してもらえますか。」
自社の取引先から、そうした要請を受けたとき、どうしたらよいでしょうか。

～「CO2 排出量の見える化」の海外・国内の最新動向，留意点，各種ツールの紹介イベント～

先行している欧州のプロジェクト(「GAIA-X」「Catena-X」)の概要，
最新の動きなど，グローバルな視点で「企業間データ連携基盤」のポイントを紹介します。
また，サプライチェーン全体の温室効果ガス(CO2)排出量の見える化が進んでいる背景，
本邦企業が目指すべき方向性，算定・開示の考え方および実態，最新動向を紹介します。

更に，CO2 排出量見える化の具体的なソリューション・サービスを紹介します。
参加者とのマッチングを図り，皆様の課題解決を支援します。

日時

9/30 (金)
13:30-17:30

定員

会場：先着60名
(オンライン配信：500名)

・基調講演① NTTコミュニケーションズ株式会社 エバンジェリスト 境野 哲氏

「欧州における脱炭素のサプライチェーン情報ネットワークの最新動向」
～グローバルサプライチェーン企業間をつなぐ国際データ連携基盤の導入に備えを～

- ・ 企業間のデータ共有が必要となっている理由
- ・ グローバル企業間データ連携基盤の要件と課題
- ・ 欧州デジタル基盤「Gaia-X」・ドイツ自動車産業のデータ連携基盤「Catena-X」の最新動向 など

・基調講演② 株式会社ゼロボード 代表取締役 渡慶次 道隆氏

「企業価値向上のための脱炭素経営」
～温室効果ガス排出量算定の最新動向～

- ・ 脱炭素化のグローバルトレンド
- ・ ステイクホルダーとの排出量データの連携が要請される理由と経済的メリット
- ・ プロダクト・カーボンフットプリント(製品・サービス別の排出量)の最新動向 など

・「CO2 排出量の見える化」の各種ソリューション・サービスの紹介
(中国地域カーボンニュートラル推進協議会の会員企業等によるプレゼンテーション)

・(講師・プレゼンテーション説明者との)名刺交換会(会場)

【こんな方におすすめ】

- ・カーボンニュートラルの取り組みを検討されている経営者、管理者の方
- ・「欧州に製品を輸出している企業」との取引がある経営者、管理職の方
- ・TCFD 提言に沿った情報開示をご担当されている部署の方
- ・GHG プロトコルに基づくスコープ 1、2、3 の算出を検討されている部署の方

【開催場所】（基調講演の講師およびプレゼンテーション説明者は会場にて名刺交換）

- ・会場 TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅前
広島市南区大須賀町13-9 ベルヴェオフィス広島 TEL(082)569-9018

（オンライン Zoom ウェビナーで同時配信）

お申し込みはこちら！

<https://forms.office.com/r/G623y7zJnh>

上記「申し込みフォーム」にて9月21日(水)までにお申し込み下さい。



【個人情報等の取扱いについて】

ご提供いただいた個人情報、企業情報等は、本イベントの運営および本イベントに関するご連絡、出席者名簿作成、今後の中国地域カーボンニュートラル推進協議会および中国経済連合会のセミナー等のご案内に使用します。作成した出席者名簿は基調講演講師およびマッチング・イベントのプレゼン説明者に配付いたします。

なお、個人情報については、個人情報保護法を遵守し、法令等の定める場合を除き、第三者への提供を行いません。

【問合せ先】

（中国経済連合会内）

中国地域カーボンニュートラル推進協議会事務局 反田（ツダ） TEL 082-548-8517

基調講演① 講師紹介

NTT コミュニケーションズ株式会社 イノベーションセンター スマートファクトリー推進室/ スマートシティ推進室 兼務 エバンジェリスト 担当部長 境野 哲(さかいの あきら)氏

- 1990年 日本電信電話株式会社に入社。社内基幹業務システムの開発を担当（情報システム本部）
- 1995年～ 官公庁向けコンサルティング、公共施設建設プロジェクトを担当（埼玉法人営業部）
- 1998年～ NTT再編成プロジェクト（基幹業務システム更改）を担当（顧客管理システム ACCEL 担当）
- 2000年～ 異業種協業による新規ビジネスインキュベーションに従事（.com ビジネスインキュベーション TF）
- 2004年～ ネットビジネスのパートナー営業/協業アライアンス等を担当（ネットビジネス事業本部）
- 2011年～ エネルギーマネジメント、M2M/IoT ソリューションの開発を担当（技術開発部）
- 2015年～ IoT・エバンジェリスト
- 2020年～ 現職

基調講演② 講師紹介

株式会社ゼロボード 代表取締役 渡慶次 道隆(とけいじ みちたか)氏

- ・東京大学工学部卒業後、JPMorgan を経て三井物産に転職。ICT 事業本部にてエネルギー関連のベンチャー投資、新規事業開発を手がける。2018年に株式会社 A.L.I.Technologies 参画後は、電力分野におけるコンサルティング、ブロックチェーンを活用したソフトウェア開発事業、GHG 排出量算定・可視化クラウドサービスの開発を統括。2021年に同事業を MBO し、株式会社ゼロボードを創業。
- ・日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）、米国証券アナリスト（CFA）

（主催）中国地域カーボンニュートラル推進協議会

【参考】 基調講演① 講演内容

| 項目 | 内容 |
|---------------|--|
| 基調講演① タイトル | 「欧州における脱炭素のサプライチェーン情報ネットワークの最新動向」 ～グローバルサプライチェーン企業間をつなぐ国際データ連携基盤の導入に備えを～ |
| 講演内容 (注) | <p>バリューチェーン全体のCO2や廃棄物の排出量を集計して情報開示するライフサイクルアセスメントなど、グローバルな産業データ連携の動きが活発化しています。</p> <p>そのなかでも欧州では、業界を統合するデータ基盤の整備プロジェクト「GAIA-X(ガイアエックス)」、ドイツ自動車産業のデータ連携基盤「Catena-X(カテナエックス)」については、参加企業が多数あり、世界的に先端的の取り組みがなされています。</p> <p>これらは従来のメーカーとサプライヤーとのデータ連携と何が異なるのでしょうか？ どういったことが解決できるようになるのでしょうか？その結果、製造業においてどのような「変革」の可能性があるのでしょうか？</p> <p>基調講演①では、欧州のESG情報開示の最新動向、「データ主権」の重要性、グローバルな企業間データ連携基盤による「変革」の潮流について、紹介します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業間のデータ共有が必要となっている理由 2. グローバル企業間データ連携基盤の要件と課題 3. データ主権を守る欧州デジタル基盤Gaia-Xのコンセプト 4. ドイツ自動車産業のデータ連携基盤Catena-Xの概要 5. 今後の製造業における企業間データ連携基盤による「変革」の可能性 6. 質疑応答 |

(注) 講演内容につきましては、今後のCN関連の動向等により一部変更の可能性があります。

【参考】 基調講演② 講演内容

| 項目 | 内容 |
|---------------|---|
| 基調講演② タイトル | 「企業価値向上のための脱炭素経営」 ～温室効果ガス排出量算定の最新動向～ |
| 講演内容 (注) | <p>2020年秋に当時の菅政権が「2050年カーボンニュートラル」を目指すことを宣言して以降、本邦でも脱炭素に関連するニュースがメディアでも盛んに取り上げられるようになった。しかし、「脱炭素」がいつかは取り組まねばならないテーマであることは認識しつつも、特定の業種・業界に属する企業を除いては、喫緊の経営課題であると捉えている企業はまだまだ少ないと言える。</p> <p>一方、世界に目を向けると、脱炭素を経営の最重要課題として捉え「企業価値向上」のために積極的に取り組む企業が、規模の大小を問わず増えているのが現状である。</p> <p>基調講演②では、脱炭素経営が一気にメガトレンドとなった背景や、企業価値向上のため、本邦企業が目指すべき方向性を示すとともに、企業に算定・開示が求められているサプライチェーン排出量の考え方、データ開示による経済的なメリット、消費者や取引先への訴求につながるプロダクト・カーボンフットプリントの算定の実態について解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脱炭素化のグローバルトレンド 2. 温室効果ガス(CO2)排出量算出・開示の実態 <ul style="list-style-type: none"> - サプライチェーン排出量算定とは - ステイクホルダーとのデータ連携が要請される理由と経済的メリット - プロダクト・カーボンフットプリント(製品・サービス別の排出量)の最新動向 など 3. 質疑応答 |

(注) 講演内容につきましては、今後のCN関連の動向等により一部変更の可能性があります。